

# 専攻建築士紹介



大津建築設計事務所

**大津 謙一**

〔設計専攻〕

## 関心を持ち続けること

日本の建物は強いという神話が崩れた阪神大震災は衝撃的でしたが、耐震偽装も又、第2波のショックという感じでした。前者が物理的に安全性確保のきっかけになったとしたら、後者は人的な安全性をどのように確保するか（反面教師的ではありますが）始まりとなるかもしれません。近年、耐震、シックハウス対策、品確法、景観法などの変化の上に建築士という職能も変化して行きつつあります。又、企業の社会的責任やコンプライアンス（法令順守）も益々叫ばれる状況の中で、個人の設計者としても、その責任を自覚し身を引締めなければならないという気持ちです。その意味で継続能力開発（CPD）はこれらの動きを知り、且つ実務に活かすためにありがたい制度です。免許更新の条件になるかならないかにかかわらず、ポイント化は指標と励みになると考えます。建築学会や建築家協会のCPD制度と統一化されていないとしたら、乱立するのではなく相互参入を考えて欲しいと思います。

専攻建築士の8つの専攻領域を見ますと、地球環境に関わる問題は専攻に関わらず関連があります。ヒートアイランド、廃棄物問題、森林保護やランドスケープ、造園、環境照明などに関わる専門家も存在するので、エコロジー専攻領域のようなものを内包した制度も考えられるのではないかと感想を持っています。

私は20数年来、江戸川区地域設計懇話会（まちづくり等地域に貢献することを目的に設立された設計事務所の勉強会）に所属し、親水公園整備に伴う商店街の活性化の提案や区画整理地区のワークショップに参加するなどの経験をしました。建築の設計はまちづくりと分かちがたい面がありますので、将来まちづくり専攻建築士の取得も目指してみたいと考えています。

最近、報道された注目すべきニュースが2つありました。東京駅の屋根が震災前の本来の形に復元されることと、日本橋の修景計画が動き出しそうな事です。高速道路の地下化による日本橋周辺の都市景観の再生は同様の計画に大きな影響を与えるものと思います。ソウル清溪川の計画のように、ぜひ実現してもらいたいものです。私自身は単体の建築設計にたずさわっていますが、まちづくりを含めたこれらの新しい動きに常に関心を持ち続けて行きたいと思っています。